

# 2026年3月期 第1四半期 決算説明資料

- |                    |                       |
|--------------------|-----------------------|
| 1) 決算概要            | 7) トピックス              |
| 2) 決算のポイント         | 8) 財政状態               |
| 3) 営業利益増減の要因分析     | 9) キャッシュ・フロー          |
| 4) 国内売上高           | 10) 設備投資と研究開発費        |
| 5) 海外売上高           | 11) 通期業績見通し           |
| 6) 商品群別売上高 [参考] 内訳 | [参考] 商品群別売上高見通し/為替の影響 |



日本光電工業株式会社

銘柄コード：6849  
2025年8月6日

# 1) 決算概要

	2025/3 第1四半期	2026/3 第1四半期	増減率 (%)	(単位：百万円、単位未満切捨て)
売上高	46,227	50,020	8.2	
国内売上高	29,493	30,686	4.0	
海外売上高	16,734	19,334	15.5	<div>           為替影響除く：+22%            （為替・アドテック社連結の影響除く：+14%）         </div>
売上総利益 (売上総利益率)	21,857 47.3%	26,316 52.6%	20.4	<div>           自社品 2025/3 1Q 2026/3 1Q            売上高比率： 68.9% → 72.6%         </div>
営業利益 (営業利益率)	- 1,248 -	1,400 2.8%	-	<div>           販管費率： 50.0% → 49.8%         </div>
経常利益	1,674	473	- 71.7	<div>           為替差損益：差益2,741百万円 → 差損1,015百万円         </div>
親会社株主に帰属する 四半期純利益	766	137	- 82.1	
平均レート	(2024/6)	(2025/6)		
1 米 ド ル	154.7円	146.3円		
1 ュ ー ン	166.7円	162.7円		

- 売上高は前期比8.2%増の500億円となりました。
- 国内売上高は、4%増の306億円となりました。  
消耗品・サービス事業の強化に注力し、売上を伸ばすことが出来ました。PAD市場でのAEDの販売も好調に推移しました。
- 海外売上高は15.5%増の193億円、現地通貨ベースでは22%の増加、為替とアドテック社連結の影響を除く実質ベースでは14%の増加となりました。全ての地域で売上を伸ばすことが出来ました。
- 営業利益は14億円となりました。増収効果およびアドテック社連結の影響に加え、在庫評価減の減少や自社品の売価アップ等により粗利率が改善し、利益を確保することが出来ました。
- 経常利益は為替差損益が差損に転じたことから71.7%減の4億円、純利益は82.1%減の1億円となりました。
- 社内計画に対しては、売上高は、国内外ともに概ね計画ラインで進捗しています。利益につきましても、粗利率は52%台を確保し、販管費も計画ラインで推移しています。

## 2) 決算のポイント

### 売上高 : 前年同期比 8.2%増

- ・国内 : 消耗品・サービス事業の強化に注力し、売上が伸長。PAD市場でのAEDの販売も好調に推移。自社品販売の注力により、現地仕入品は減収。
- ・海外 : 全ての地域で売上が伸長。為替およびアドテック社連結の影響を除いても、北米、アジア州他を中心に二桁成長。

### 営業利益 : 1,400百万円 (前年同期は1,248百万円の営業損失)

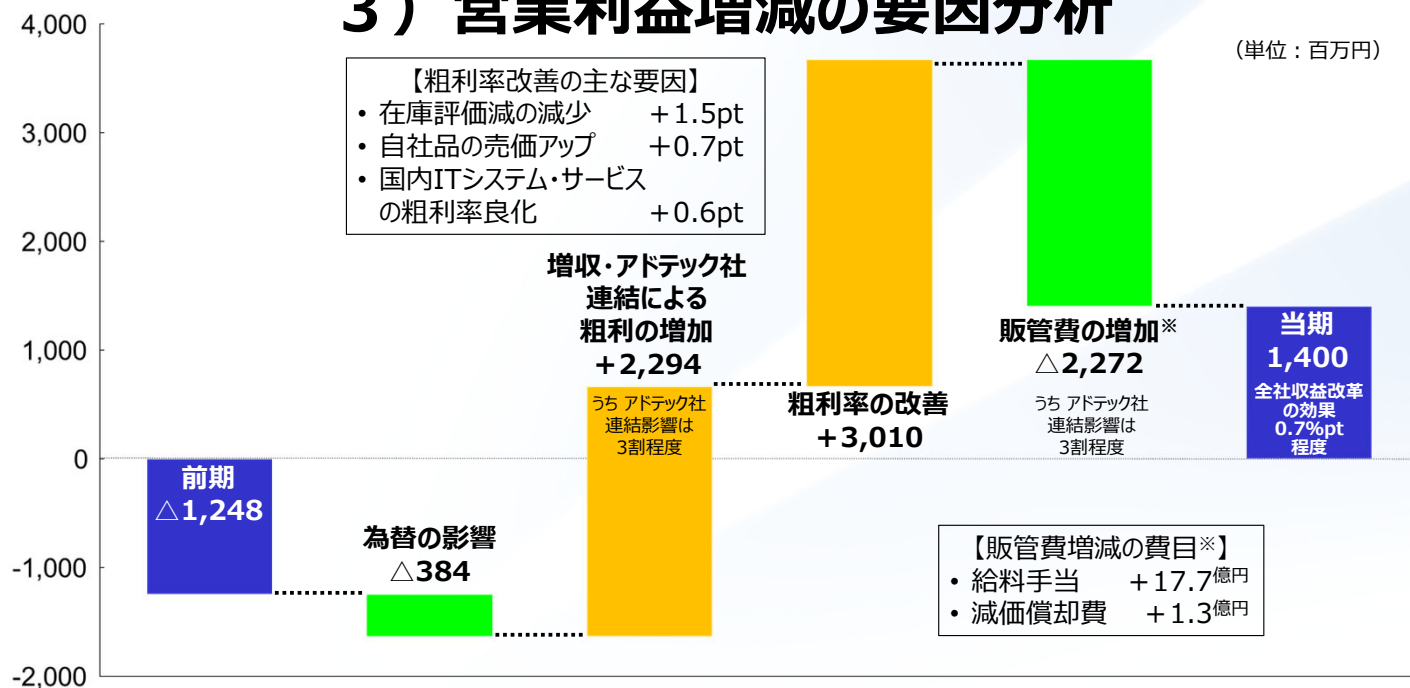
- ・増収効果およびアドテック社連結の影響に加え、在庫評価減の減少や自社品の売価アップ等により粗利率が改善し、利益を確保。

### 経常利益 : 前年同期比 71.7%減

- ・為替差損益が差損に転じる。

### 3) 営業利益増減の要因分析

(単位：百万円)



※「販管費の増加」は為替の影響を除いた営業利益増減要因としての金額、  
「販管費増減の費目」は円建ての販売費及び一般管理費のうち主な増減金額を表しています。

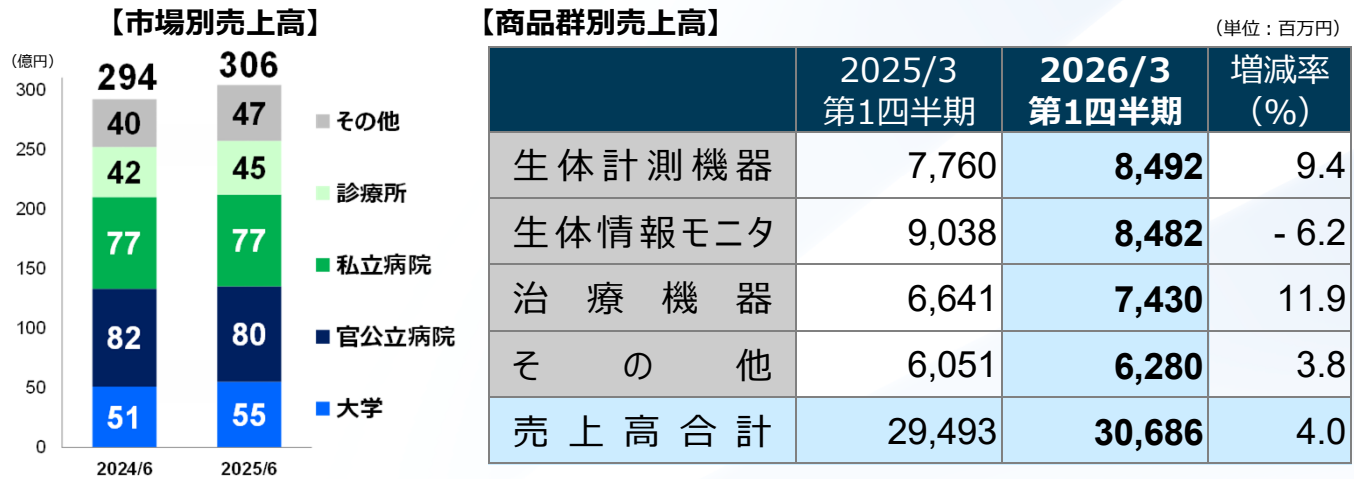
© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

NIHON KOHDEN

3

- 前年同期の営業損失12億円から、14億円の営業利益に転じた要因について、ご説明します。
- 為替の影響につきましては、3億円のマイナス要因となりました。
- 増収およびアドテック社連結による粗利の増加は、22億円となりました。このうち、アドテック社連結の影響は3割程度です。
- 粗利率の改善につきましては、在庫評価減の減少、自社品の売価アップ、国内ITシステム・サービスの粗利率改善等により、30億円のプラス要因となりました。
- 販管費につきましては、賃上げ対応により人件費が増加したことから、22億円のマイナス要因となりました。アドテック社連結の影響はのれん等償却費を含め3割程度です。

## 4) 国内売上高



【市場別】 PAD市場でのAEDの販売に加え、大学、診療所市場が好調に推移。私立病院市場は前年同期並み、官公立病院市場は前年同期を下回る。

【商品群別】 **生体計測機器**： 売上が回復した診断情報システムに加え、心臓カテーテル検査装置群が二桁成長。心電計群も好調、脳神経系群は堅調に推移。

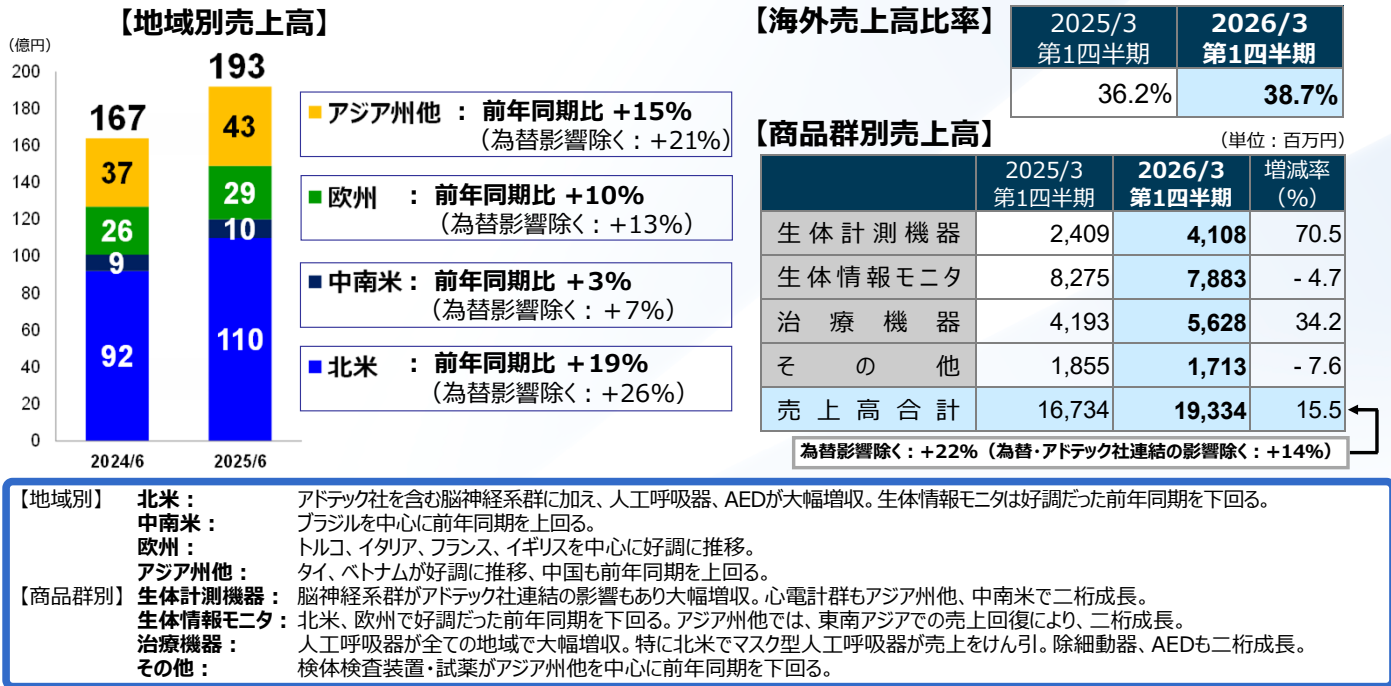
**生体情報モニタ**： 新製品効果もあり前年同期に好調だった医用テレメータに加え、ベッドサイドモニタが減収。センサ類など消耗品は堅調に推移。

**治療機器**： AEDが更新需要の継続、新製品効果もあり二桁成長。除細動器も好調に推移。

**その他**： 検体検査装置・試薬が二桁成長。医療機器の設置工事・保守サービスも好調に推移。現地仕入品は減収。

- 国内売上高は、12億円増の306億円となりました。顧客価値提案を推進し、消耗品・サービス事業を強化した結果、売上を伸ばすことが出来ました。
- 市場別では、PAD市場でのAEDの販売に加え、大学、診療所市場が好調に推移しました。私立病院市場は前年同期並み、官公立病院市場は前年同期を下回りました。
- 商品別では、治療機器が二桁成長となり、生体計測機器も好調に推移しました。その他商品群も堅調でした。一方、生体情報モニタは前年同期を下回りました。
- 生体計測機器では、売上が回復した診断情報システムに加え、心臓カテーテル検査装置群が二桁成長となりました。心電計群も好調に推移し、脳神経系群は堅調でした。
- 生体情報モニタでは、新製品効果もあり前年同期に好調だった医用テレメータに加え、ベッドサイドモニタが減収となりました。一方、センサ類など消耗品は堅調に推移しました。
- 治療機器では、AEDが更新需要の継続や新製品効果もあり二桁成長となりました。除細動器も好調に推移しました。
- その他商品群は、検体検査装置・試薬が二桁成長となり、医療機器の設置工事・保守サービスも好調に推移しました。自社品販売の注力により、現地仕入品は減収となりました。

## 5) 海外売上高



- 海外売上高は、26億円増の193億円、現地通貨ベースでは22%の増加となりました。全ての地域で売上を伸ばすことが出来ました。為替およびアドテック社連結の影響を除いても二桁成長となりました。海外売上高比率は38.7%となりました。
- 北米では、アドテック社を含む脳神経系群に加え、人工呼吸器やAEDなど治療機器も大幅増収となり、二桁成長となりました。生体情報モニタは、現地通貨ベースでは前年同期並みを確保しましたが、円高により減収となりました。
- 中南米では、ブラジルを中心に前年同期を上回りました。
- 欧州では、トルコ、イタリア、フランス、イギリスを中心に好調に推移しました。
- アジア州他では、タイ、ベトナムが好調だったほか、中国も前年同期を上回り、二桁成長となりました。中国は12月決算であり、上期は一桁半ばから一桁後半の減収となる見通しです。
- 商品別では、生体計測機器、治療機器が大幅増収となった一方、生体情報モニタ、その他商品群は前年同期を下回りました。  
 生体計測機器は、脳神経系群がアドテック社連結の影響もあり大幅増収となりました。心電計群もアジア州他、中南米で二桁成長となりました。  
 生体情報モニタは、北米、欧州で好調だった前年同期を下回りました。一方、アジア州他では、東南アジアでの売上回復により、二桁成長となりました。  
 治療機器は、人工呼吸器が全ての地域で大幅増収となりました。特に北米でマスク型人工呼吸器が売上をけん引しました。除細動器、AEDも二桁成長となりました。  
 その他商品群では、検体検査装置・試薬がアジア州他を中心に前年同期を下回りました。

## 6) 商品群別売上高

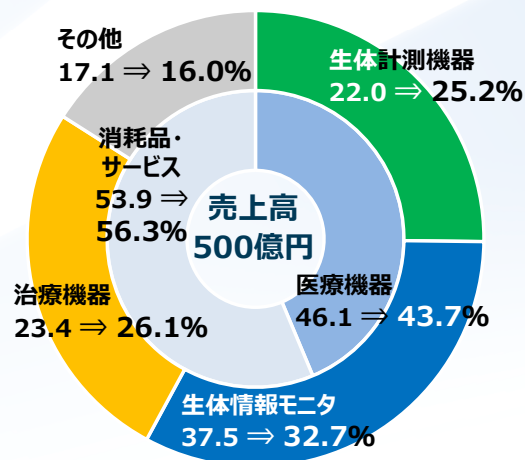
(単位：百万円)

	2025/3 第1四半期	2026/3 第1四半期	増減率 (%)
生体計測機器	10,170	12,600	23.9
生体情報モニタ	17,314	16,366	- 5.5
治療機器	10,835	13,058	20.5
その他	7,906	7,994	1.1
売上高合計	46,227	50,020	8.2

(参考)

医療機器	21,331	21,856	2.5
消耗品・サービス	24,895	28,163	13.1

商品群別売上構成比  
(2024/6 ⇒ 2025/6)



- 生体計測機器は前期比23.9%増の126億円、生体情報モニタは5.5%減の163億円、治療機器は20.5%増の130億円、その他商品群は1.1%増の79億円となりました。
- アドテック社連結の影響もあり、消耗品・サービスは13.1%増の281億円、売上構成比率は56.3%に上昇しました。

# 【参考】商品群別売上高の内訳

(単位：億円、単位未満切捨て)

生 体 計 測 機 器	2025/3 第1四半期	2026/3 第1四半期
脳 神 経 系 群	21	37
心 電 計 群	13	14
心臓カテーテル検査装置群	43	47
診 断 情 報 シ ス テ ム 群	10	12
そ の 他 ※	14	14

※その他には、他社製の生体計測機器を含みます。

治 療 機 器	2025/3 第1四半期	2026/3 第1四半期
医 科 向 け 除 細 動 器	15	18
A E D	52	62
ペ ー ス メ ー カ ・ I C D	6	7
人 工 呼 吸 器	14	23
そ の 他	19	19

生 体 情 報 モ ニ タ	2025/3 第1四半期	2026/3 第1四半期
生 体 情 報 モ ニ タ 合 計	173	163
うち 臨 床 情 報 シ ス テ ム 群	9	7

そ の 他	2025/3 第1四半期	2026/3 第1四半期
検 体 検 査 装 置	29	30
画 像 診 断 装 置 他 ※	50	49

※他の商品群に分類されない、消耗品や設置工事・保守サービスを含みます。

- 商品群別売上高の内訳は、ご覧のとおりです。

## 7) トピックス

### 2026年3月期 主な新製品・サービス

#### ソリューション事業 (ITS+DHS)

##### 臨床アシスタントサービス PRM-2100

 PrimeBridge  
2024年度4Q：日本

- 電子カルテからの患者情報と連携、医療機器の検査データを一元管理し、院内外で参照可能
- 中小病院向けに、クラウドサーバを活用した月額利用料制で、初期導入費用を抑制、アップグレードに対応

##### 脳神経遠隔診断支援

##### Live View Panel Pro

2025年度1Q：米国



- 脳波計、睡眠ポリグラフ、IONM※で計測した生体情報等をリアルタイムで一括管理
- 専門医による遠隔診断を支援

※ IONM (Intraoperative neurophysiological monitoring)：術中神経モニタリング。

#### 治療機器事業

##### オートショックAED AED-3200

2025年度1Q：日本



- 救助者がショックボタンを押す必要がなく、救助への心理的な負担を軽減、電気ショックまでの時間短縮を目指す
- 音声ガイドに加え、ランプの点滅・点灯で操作や電気ショックのタイミングをお知らせ

#### アドテック社を100%子会社化

- 2024年11月 親会社株式71.4%を取得し、連結子会社化
- 2025年7月 残り株式28.6%を取得し、100%子会社化
- 1Q、上期は売上、利益ともに計画どおりに進捗

- 当期の主な新製品はご覧のとおりです。
- ソリューション事業では、前期末に上市した、中小病院向けの臨床アシスタントサービス PrimeBridgeの提案に注力しています。電子カルテからの患者情報の連携に加え、医療機器の検査データを一元管理、院内外で参照できるため、医療現場の業務効率の改善や医療安全、医療の質向上への貢献を期待しています。クラウドサーバを活用した月額利用料制で、初期導入費用を抑制できるほか、最新バージョンへのアップグレードにも対応しています。
- 米国では、てんかんや睡眠時無呼吸症候群等の遠隔診断をサポートするLive View Panel Proを発売しました。脳神経領域では、脳波を判読できる専門医が少ないこともあり、病院内、病院グループ内でリアルタイムに生体情報を一括管理するシステムが求められています。トップ病院からのニーズをくみ取り、ユーザーインターフェースを従来品よりも向上させており、業務効率の改善、患者さんの予後改善への寄与を期待しています。
- 治療機器事業では、オートショックAEDの普及モデルを国内で発売しました。救助者がショックボタンを押す必要がなくなるため、救助への心理的な負担の軽減につながることを期待しています。音声ガイドに加え、ランプの点滅・点灯で操作や電気ショックのタイミングをお知らせすることで、電気ショックまでの時間短縮による救命率のさらなる向上を目指しています。
- 昨年11月に子会社化したアドテック社は、本年7月をもちまして当社100%子会社となりました。アドテック社は12月決算であり、第1四半期および上期につきましても、売上、利益ともに計画どおりに進捗しています。引き続き、4月に新設した脳神経事業統括部を中心にシナジー創出に注力します。

## 8) 財政状態

(単位：百万円)

	前期末 2025/3	当第1四半期末 2025/6	増減額		前期末 2025/3	当第1四半期末 2025/6	増減額
流動資産	183,085	173,198	- 9,886	流動負債	72,296	65,104	- 7,192
棚卸資産	56,174	58,194	2,019	有利子負債	26,030	26,034	3
有形固定資産	29,270	29,023	- 247	固定負債	4,685	4,433	- 251
無形固定資産	27,653	26,048	- 1,605	純資産	181,294	177,528	- 3,766
投資その他資産	18,266	18,795	529				
資産合計	258,276	247,066	- 11,210	負債・純資産合計	258,276	247,066	- 11,210
棚卸資産回転月数 (ヵ月)	6.2	6.6		自己資本比率	69.5%	71.2%	

### 【流動資産の減少の理由】

受取手形及び売掛金                      △136億円

### 【流動負債の減少の理由】

未払法人税等                                  △29億円  
賞与引当金                                      △33億円

- 総資産は、112億円減少し、2,470億円となりました。

## 9) キャッシュ・フロー

(単位：百万円)

	前第1四半期 2024/6	当第1四半期 2025/6	増減額
I 営業 C F	- 544	5,911	6,456
II 投資 C F	- 1,115	- 1,160	- 45
F C F	- 1,660	4,750	6,411
III 財務 C F	- 2,581	- 2,582	- 0
換算差額	1,157	- 1,017	- 2,174
増減額	- 3,083	1,151	4,235
期末残高	46,794	44,213	- 2,580

	2024/6	2025/6	増減
税金等調整前四半期純利益	1,669	472	△1,196
為替差損益 (益 : △)	△2,080	915	+2,996
売上債権の増減額 (増加 : △)	12,623	13,768	+1,145
仕入債務の増減額 (減少 : △)	△3,583	△1,022	+2,560
法人税等の支払額	△5,360	△3,545	+1,814

- 期末残高は、前期末から11億円増加し、442億円となりました。

## 10) 設備投資と研究開発費

(単位：百万円)

	2025/3 第1四半期	2026/3 第1四半期	増減額	2025/3 実績	2026/3 計画
設 備 投 資	2,222	859	- 1,362	9,519	9,400
減 価 償 却 費	933	1,060	127	4,067	4,900
研 究 開 発 費	1,602	1,585	- 17	6,826	7,200

### ● 2026/3設備投資計画

新製品の「型」、計測器・治具、販促用製品、工場生産設備

PLM/MES※システムの導入 設備投資額：約30億円

< 23/3：3億円、24/3：5億円、25/3：9億円  
26/3：8億円、27/3～：5億円

PLM/MES：26/3稼働予定

鶴ヶ島新工場の建設

総投資額：約110億円

< 23/3：23億円（土地取得）  
～25/3：41億円、26/3：32億円（建屋・設備等）  
27/3～：14億円（設備等）

着工：2024年7月  
完成：2025年末予定  
稼働開始：2026年予定

※PLM（Product Life-cycle Management）：製品ライフサイクル管理、MES（Manufacturing Execution System）：製造実行システム。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

 NIHON KOHDEN

11

- 設備投資は8億円、減価償却費は10億円、研究開発費は15億円となり、それぞれ概ね計画どおりの進捗です。
- 通期の設備投資は94億円、減価償却費は49億円、研究開発費は72億円に変更ありません。

# 11) 通期業績見通し

	2025/3 実績	2026/3 予想	増減率 (%)	(単位: 百万円)
売上高	225,424	240,000	6.5	
国内売上高	145,237	149,800	3.1	
海外売上高	80,187	90,200	12.5	<div>為替影響除く: +20%</div> <div>為替・アドテック社連結の影響除く: +14%</div>
売上総利益 (売上総利益率)	117,157 52.0%	126,000 52.5%	7.5	<div>関税影響除く: 53.5%</div>
営業利益 (営業利益率)	20,713 9.2%	24,000 10.0%	15.9	
経常利益	20,373	24,000	17.8	
親会社株主に帰属する 当期純利益	14,098	15,000	6.4	
海外売上高比率	35.6%	37.6%		

【地域別海外売上高】			
	2025/3 実績	2026/3 予想	増減率 (%)
北米	41,900	47,500	13.4
中南米	5,388	5,900	9.5
欧州	12,554	13,400	6.7
アジア州他	20,344	23,400	15.0
海外計	80,187	90,200	12.5

※第2四半期以降の前提為替レートは、140円/米ドル、156円/ユーロから変更していません。

© Copyright NIHON KOHDEN CORPORATION All Rights Reserved

NIHON KOHDEN

12

- 第1四半期の実績は概ね計画どおりに進捗しており、通期の業績予想に変更はありません。為替レート的前提も、期初から変更していません。
- 上期売上高は、国内で一桁前半、海外で二桁の増収を見込んでいます。  
国内では、病院経営の悪化に伴い設備投資に慎重な動きが見られますが、消耗品・サービス事業に注力するとともに、生体情報モニタやITシステムの提案強化に努めます。  
海外では、中近東・アフリカ、中南米で予算執行が下期偏重にありますが、北米およびアジア州他で二桁成長を目指します。  
営業利益につきましては、上期の粗利率は第1四半期および通期と同じく52%台と見ており、販管費の伸びの抑制に努め、増益の見通しです。
- なお、米国の関税政策による業績影響につきましては、直接的な関税負担として25億円程度のマイナス影響を通期の営業利益に織り込んでいます。期初の想定よりも税率が下がることから、通期業績へのマイナス影響は小さくなると見えています。

# 【参考】商品群別売上高見通し/為替の影響

	2025/3 実績	2026/3 予想	構成比 (%)	増減率 (%)
生 体 計 測 機 器	46,874	53,200	22.2	13.5
生 体 情 報 モ ニ タ	84,965	89,000	37.1	4.7
治 療 機 器	53,184	56,600	23.6	6.4
そ の 他	40,400	41,200	17.1	2.0
売 上 高 合 計	225,424	240,000	100.0	6.5

(単位：百万円)

(参考)

医 療 機 器	113,304	120,800	50.3	6.6
消 耗 品 ・ サ ー ビ ス	112,119	119,200	49.7	6.3

平均レート

	2025/3 実績	2026/3 予想
1 米 ド ル	152.4円	140円
1 ュ ー ロ	163.5円	156円

為替感応度の概算値（年間）

	売上高	営業利益
米 ド ル	4.7億円	1.2億円
ユ ー ロ	0.6億円	0.2億円

- 通期の商品群別の売上高予想につきましても、変更ございません。

この資料に記載されている業績予想数値は、当社および当社グループ会社の事業に関連する業界の動向、国内外の経済情勢、各種通貨間の為替レートの変動など、業績に影響を与える要因についての現時点で入手可能な情報を基にした見通しを前提としております。

同数値は、市況、競争状況、新商品導入の成否など多くの不確実な要因の影響を受けます。従って、実際の業績は、この資料に記載されている予想とは大きく異なる場合がありますことをご承知おさください。

また、この資料に含まれている製品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告を目的としているものではありません。

【担当部署】経営戦略統括部

【連絡先】TEL03-5996-8003